

## ＜用語の解説＞

あ行	
あばれ木	森林の中で、周辺の木と比べ形状が大きく変形している木や大きな枝が無数にあるような木のことをいい、隣接する木に悪い影響を与えます。
内山治山の碑	昭和二十八年に内山組合が産業開発優良団体として県知事表彰を受けたことを機に、内山組合を築き上げ、造林事業を進めてきた先駆者たちの偉業を後世に伝え、広く顕彰するために建てられた記念碑です。
SGEC 森林認証	森林の更新、育成、手入れに当たって、森林の循環性が担保されているか、生物多様性の維持について注意が払われているかなど、森林の管理状況を様々な点から審査し、適切であることを証明する認証制度です。
SDGs	持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）。平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、17 のゴール・169 のターゲットから構成される 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことをいいます。
か行	
カーボンニュートラル	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることをいいます。
拡大造林	天然林の伐採跡地や原野などに行う人工造林をいいます。これに対し、人工林の伐採跡地や山林災害跡地に行う人工造林は、再造林といいます。
過密化	間伐等の保育が適切に実施されず、その樹種や林齢などにおいて適正な本数以上に立木が成立している状態を過密といい、手入れがされずにそのような状態になる状況を過密化といいます。
間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定（みなとモデル）	東京都港区では、区内の建築物への国産木材の使用を推進するため「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」があります。本市では、この制度で利用される国産木材を供給するため、港区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結しました。 「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」ウェブサイト <a href="http://www.uni4m.or.jp/minatomodel">http://www.uni4m.or.jp/minatomodel</a>

競争	森林内で、光、養分、水などが不足し植物がお互いに奪い合う状態を競争といいます。造林木の競争が起こると成長が抑制されてしまうため、間伐などの手入れが必要です。
郷土樹種	もともと地域で自然に生育している樹木や過去に確かな分布記録がある樹種、歴史的文化的背景を持って地域に導入された樹種などを郷土樹種と呼びます。
金原明善	明治初期から大正にかけて活躍した静岡県の偉人です。天竜川の治水、植林事業が事績として特に有名ですが、本市においても桑崎地先の荒れ地に模範林を植林するなど、本市の林業発展に多大な貢献を果たされました。
グラップル	木材を掴むことのできる高性能林業機械で、丸太を並べ積み上げたり、トラックに積み込み、荷降ろしができたり、様々な作業をすることができます。作業道などに集材するために、ウィンチをつけてある機種もあります。
後継樹	森林の更新にあたり、天然更新で次に生育してきた木や、人工更新で新しく植えた木のことを後継樹と呼びます。
高度公益機能森林	森林病虫害等防除法に基づき、保安林や保安林以外で公益的機能が高い松林等として県知事が指定した森林をいいます。
更新	天災や伐採等の跡地で、植林や自然発生により森林が代替わりすることを森林の更新といいます。人為によって更新することを人工更新といい、種子の飛散や切り株からのぼう芽等の自然力を活用した更新を天然更新といいます。
混交林	二種類以上の樹種から構成される森林をいいます。特に、スギ、ヒノキ等の針葉樹とブナ、コナラ等の広葉樹が混生している森林は、針広混交林と呼ばれます。
根系	植物の、地中に幾重にも枝分かかれして伸びた根っ子全体をいいます。
さ行	
材積	立木の状態における幹の体積を立木の材積といいます。材積は、木からどれ位の木材が生産できるかの目安になります。
山脚	山の裾野をいいます。
下刈	造林木の生育を妨げる雑草木などを刈り払う作業をいいます。
樹冠	樹木の枝と葉の集合部分を樹冠といいます。
樹冠疎密度	樹冠閉鎖度ともいい、森林の枝葉がどれくらい茂っているかを示す数字です。隣り合う木々の枝葉の間に大きく隙間がある状態を樹冠が疎であるといい、木々が成長して林地全体が枝葉で覆われる状態を樹冠が密であるといいます。

樹群	同一種類の樹木が集まって生育している状況をいい、群生ともいいます。
小流域	流域とは、河川が降水等を集めつつ流れる、その範囲をいいます。富士川のような大きな河川でも使われますが、小流域とはもっと狭い範囲の谷筋のことをいいます。
除伐	造林地に侵入してきた天然性の樹種や、造林木のなかで成長や形質の不良なものを切り捨てる作業をいいます。
人工林	人の手による植栽や種まき等で成立した森林をいいます。
森林の多面的機能	森林は木材の原料だけでなく、水資源の蓄積、土砂崩れなど山地災害の防止、様々な生物を育む生態系の保全、自然景観の構成要素など多くの役割を果たしています。それらをまとめて、森林の多面的機能と呼びます。
森林経営管理制度	平成31年4月1日に施行された森林経営管理法による制度。森林所有者の意向に基づき、市町村が森林所有者から取得した森林の経営管理権を、意欲と能力のある林業経営者に再委託し、森林の経営管理を促進する制度のことをいいます。適切な経営管理が行われていない森林を、林業経営者に集積・集約化することで、森林の適切な管理と林業の成長産業化の両立を図ることとしています。
森林経営計画	森林所有者又は森林の経営の委託を受けた者が、自らが経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画のことをいいます。計画に基づいた効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多面的機能を十分に発揮させることを目的としています。
制限林	森林の公益的機能などを発揮させるため、法令などにより森林伐採や開発などが制限される森林を制限林と呼びます。
成立本数	樹木が土地に根付き、生育している本数を成立本数といえます。
施業の集約化	近接する小規模な森林の所有者が集まり、一緒に森林の手入れを行うことを施業の集約化といいます。施業の集約化には、スケールメリットの発揮により生産コストの抑制が期待できる等の利点があります。
セルロースナノファイバー	植物などの主成分のセルロースを微細化したもので、軽量・高強度・透明性等の特性を生かして、様々な用途への活用が期待される新素材のことをいいます。
粗腐植	朽木、落ち葉、枝などが地面に落ち、分解されて土に戻ることを腐植といいますが、粗腐植とは腐植しかけているが、分解されきっていない状態の腐植物のことを指します。

た行	
玉切り	林業関係者の間では、昔から木のことを玉（たま）とも呼びます。玉切りは、切り倒した木の幹を丸太として搬出する長さに切り分ける作業です。
単層林	林冠が一層のみの森林をいいます。複層林の対語です。
稚樹	種子から発芽し、ある程度の大きさになるまでの発達段階にある幼木をいいます。
地区保全森林	高度公益機能森林には指定されないものの、松林としての機能を確保しつつ、高度公益機能森林への被害の拡大を防止する措置を実施することが適当な松林をいいます。
な行	
二酸化炭素固定	植物が行う光合成は、光エネルギーを利用して二酸化炭素と水から有機物（炭水化物）を合成します。植物の中でも樹木は、この合成された炭水化物を、枝葉、幹を構成する要素として使用し成長します。このように、樹木は大気中の二酸化炭素を吸収し固定する働きがあります。 木材を資材、建材などに使用することは、二酸化炭素が固定化された状態を継続させるので、二酸化炭素の排出量削減に貢献するといえます。
は行	
ハーベスタ	1 台の機械で伐木と造材作業ができる高性能林業機械をいいます。
伐期齢	木材が順調に成長している場合の、主伐が予定される林齢を伐期齢といいます。
搬出間伐	伐倒木を木材等に利用するため、林外に搬出する間伐をいいます。伐倒木を搬出せず林内に置いたままにする間伐は、捨て切り間伐といいます。
被圧木	立木間の競争に負け、優勢木に圧迫されて成長が悪くなった木をいいます。
被害拡大防止森林	松くい虫の被害対策を緊急に行わないと、松くい虫被害が高度公益機能森林に著しく拡大することになると認められる松林をいいます。
標準伐期齢	地域における育成状況から、木が十分に育ち、主伐を実施する時期を迎える標準的な林齢をいいます。
風衝地	地形により強い風に晒される土地を風衝地と呼びます。
風致	自然の味わい、景観、おもむきをいいます。
複層林	成長の異なる樹種や植栽時期の違いなどにより、林冠が多層的な構造を持つ森林をいいます。単層林の対語です。

フォワーダ	玉切りした丸太を荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械をいいます。
富士・愛鷹山麓地域環境管理計画	本市のまちづくりを進める中で、富士・愛鷹山麓地域の「自然環境の保全と創造」、「自然の節度ある利用」を図っていくための、総合的な環境管理の在り方を定めた長期計画です。
世界文化遺産構成資産へのアクセス道路	富士山を訪れるための主要な幹線道路を指します。
富士市環境基本計画	富士市環境基本条例に基づき、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために作成した計画です。地球温暖化対策として、温室効果ガス削減のための施策も含んでいます。
富士地区林業振興対策協議会	富士市、富士宮市の森林・林業の振興と木材需要の拡大を図ることを目的とし、森林組合ほか林業関係事業者の代表で組織された協議会です。
プレカット	住宅建築用の柱、桁、合板などの加工を、工場で機械によりあらかじめ行うことをいいます。プレカットにより、建築現場での省力化や正確な組立てができます。
プロセッサ	枝葉払い、玉切りを行う造材機械をいいます。プロセッサに伐倒機能も付加したものをハーベスタといいます。
保安林	水源の涵養や山地災害の防止等の公共の目的を達成するため、農林水産大臣又は県知事が指定した森林で、その機能を維持増進するために伐採等に制限が設けられています。
保育	林業では、植栽木に光を当てるための下草を刈る下刈り、真っ直ぐな木を育てるため枝を切り落とす枝打ち、植栽木以外の樹木を伐採する除伐、成長に最適な本数にするための間伐などの森林施業を保育といいます。
ぼう芽	伐採後の切り株から芽が出ることをぼう芽（萌芽）といいます。主に広葉樹で見られます。
母樹	種子や挿し穂（挿し木用の木）を採取する元になる樹をいいます。
ま行	
松くい虫被害	マツノマダラカミキリが媒介する線虫の侵入により、松が枯れる病気（正式病名：マツ材線虫病）の被害をいいます。
民有林	森林法第2条の定義により、国が所有する森林以外の森林を民有林といいます。そのため、自治体や公共機関が所有する森林も民有林に含まれます。

木質バイオマス	バイオマスとは、生物由来の再生可能な資源を指し、特に木材を用いたバイオマスのことを木質バイオマスと呼びます。
モザイク的配置	一箇所で同時期に大規模な森林の消失が起きないように、皆伐する場所を分散させて、皆伐箇所の集中を避けることをモザイク的配置と呼びます。
ら行	
裸地	草木が生えていない土地をいいます。
林冠	枝葉が成長し、樹冠が相接して連続状態になったものを林冠といいます。森林が林冠をなし、立木の枝ぶりの間に隙間がなくなった状態を、林冠の閉鎖あるいはうっ閉といいます。
林業事業体	造林業者や素材生産業者など林業の事業主体及び森林所有者などの森林の保育主体を指します。
林小班	県が作成した森林計画図において、樹種や林齢、所有者毎に森林を特定できるよう割り当てた区画を林小班といいます。林小班をある程度の大きさでまとめたものが準林班、準林班を小流域の規模でまとめたものを林班と呼び、県の「森林情報共有システム」で見ることができます。 「静岡県森林情報共有システム」ウェブサイト <a href="https://fgis.pref.shizuoka.jp/">https://fgis.pref.shizuoka.jp/</a>
林齢	森林の中の主な樹種の年齢を平均した森林の年齢をいいます。人工林においては植栽を行った年を1年目としています。
齢級	林齢を5年刻みで区分した等級です。林齢1年～5年を1齢級、6年～10年を2齢級として数えます。

(参考文献：森林・林業百科事典)